

味方 中学校区（ 味方 小， 味方 中）

【目指す子どもの姿】

- 自分で考え、互いを理解しながら支え合い、学び合う子ども
- 地域（味方）に誇りを持ち、自分に自信をもって、将来、日本や世界で堂々と活躍できる子ども

〈 「目指す子どもの姿」 の設定の仕方 〉

- ・ 第1回小中一貫教育推進会議(H28.5)において、目の前の子どもたちの現状とこれからの社会の姿を踏まえながら味方の子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を話し合った。
 - (1)自分で考え積極的に行動する主体性
 - (2)目標に向かって粘り強く努力するたくましさ
 - (3)暮らす地域に対する誇りや自分に対する自信
 - (4)関係や視野を広めようと、積極的に他とかかわり、コミュニケーションやコラボレーションをしていく意欲・態度
- ・ 教育推進会議を受け、地域の人たちが尊敬している味方出身の先人（元京都大学総長・医学博士）平澤興氏をモデルにしながらか中学校の校長が話し合って子ども像を設定した。
- ・ 2019年度から『第Ⅱ期小中一貫教育推進プロジェクト』をスタートするにあたって、小中一貫した教育を進める目的とこれまでの取組の経緯、9年間を通して目指す子ども像と目指す子ども像にかかわる実態と課題のとらえを小中学校職員合同研修会および保護者、地域の代表等で構成する小中一貫した教育推進連絡会で共通理解を図った。

◆共通プログラム

- ① 「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」における小中一貫した教育の取組

別紙参照：様式2「各中学校区における小中一貫した教育の取組2」

〈 「身に付けさせたい資質能力」とその実現に関わる方法について 〉

【身に付けさせたい資質・能力】

- ・ 課題解決への見通しを持ち、他者とかかわりながら追求したり分かりやすく表現したりする力を付け、生活や学習に活かす。
- ・ 主体的に地域貢献活動に取り組み、人とかかわりを通して自己肯定感と表現力を高めながら、自分と社会の将来について考えを深める。

【その実現に関わる方法】

身に付けさせたい資質・能力を地域と共通理解し、その実現に向かって学校が地域の教育資源を積極的に活用する。

- ・ 地元（南区・味方）を象徴する行事や文化財に生徒が直接かかわる活動を通して、自分たちが暮らす地域の財産を改めて見直し、地域への愛着と誇りを育むとともに、地域が抱える問題にも目を向け、10年後、20年後に地域はどうなっていくか、自分が地域とどうつながり、地域のために貢献していくかを思い描き、地域と自分自身の未来を考えるきっかけとする。
- ・ 地元の財産であり象徴である「笹川邸」と「白根大風合戦」にかかわる学習活動を教育課程に

位置付けることで地域の活性化につなげるとともに、地元の方を講師に招いて指導を受けることで、世代を超えてつながる一助とする。

② 「9年間を見通した学習の仕方」の取組

「9年間を見通した学習の仕方」の内容

- どの子にも分かりやすい・取り組みやすい授業のための基礎的環境整備としてのUDLの具体を小中学校間で共通理解し、発達段階と子どもの実態に応じて実践する。
- 「主体的・対話的で深い学び」を促す「学び合い」の質を高める工夫を各校の授業研究の重点として進め、その成果を共有する。
- 家庭学習の充実を図る有効な方法を発達段階に応じて各校で工夫するとともに両校で共有し、接続を図る。

〈「9年間を見通した学習の仕方」の設定・運用の仕方〉

- 小中合同の授業力向上部会を組織し、具体的な共通実践の内容を確認する。
- 授業力向上部会のメンバーとなっている職員が、各校で組織的な取組をより具体化し、授業改善を推進する。
- 定例の合同研修会で各校の進捗状況を共有する。また各校における研究授業にできる範囲で参観し子どもの学びの姿や職員の指導方法について学び合う。(管理職から積極的に参観させる。)
- 年度末には設定した学習の仕方の内容や家庭学習の接続について協議し、修正および重点化する。

③ 「小中一貫合同研修会」の取組

「小中一貫合同研修会」のねらいや次第・研修内容の概略

第1回(4月)全体会・部会

- 2019年度から『第Ⅱ期小中一貫教育推進プロジェクト』をスタートするにあたって、小中一貫した教育を進める目的とこれまでの取組の経緯、9年間を通して目指す子ども像と目指す子ども像にかかわる実態と課題のとらえを小中学校職員合同研修会および保護者、地域の代表等で構成する小中一貫した教育推進連絡会で共通理解を図る。
- 3部会(学習部会、生徒指導部会、特別支援教育部会)に分かれ、顔合わせと、2019年度に取り組んでいく内容および日程を協議する。(後日、事務局が集約する。)

合同研修会(7月)外部講師を招いた合同研修

- 小中学校それぞれの学級活動(学級力向上プロジェクトの授業)を参観してもらい、重点である主体性の育成について全体指導を受ける。

第2回(夏季休業中)部会

- 3部会で各校における推進の状況を報告し合い、成果と課題を共有する。今後の予定を確認する。(後日、事務局が集約する。)
- 3部会から進捗状況を報告し、全員で共通理解を図る。

第3回(2月)部会・全体会

- 3部会で各校における推進の状況を報告し合い、成果と課題を共有する。今後の予定を確認する。(後日、事務局が集約する。)
- ファシリテーションで子どもたちの成長と職員の向上的変容を具体的に共有する。
- 1年間のまとめ(パンフレット作成)について確認する。

〈「小中一貫合同研修会」の実施方法の工夫〉

小中学校の全職員が小中一貫した教育を推進する目的と目指す子ども像を共通理解し、ベクトルを揃えて取り組めるかどうかが重要である。職員が入れ替わっても継続的に取り組むことができるように、共通理解を図る時間を大切にしている。また、全職員が度々集まる機会を設定するのは難しいので、年間3回の合同研修（全体会と部会）を実施している。

④ 「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の取組

「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」のねらいやメンバー・次第・協議内容の概略

【メンバー】

コミュニティ協議会長、育成協議会長、民生委員体表、小中学校評議員、小中学校PTA役員、小中学校地域教育コーディネーター、小中学校校長・教頭・教務主任（または担当者）

※必要に応じてオブザーバーを入れる。

【協議内容の概略】年2回開催

第1回（5月）中学校区の子どもの課題についての意見交換

・強みと弱み ・目指す子ども像と身に付けさせたい資質・能力 ・必要な教育活動と協働体制

第2回（2月または3月）1年間の取組の評価

・必要な教育活動と協働体制の見直し

〈「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の実施方法の工夫〉

小中一貫教育推進委員会の委員が学校評議員やいじめ防止連絡協議会委員等を兼任しているので、3つの会議を同一日に開催している。

◆独自プログラム（「目指す子どもの姿」の達成を図る教育活動は◎）

① 何を（取組内容）：◎学級力向上プログラムを取り入れた主体性・自律性向上を目指す学級活動

【ねらい】

生徒指導部会で目指す、四つの視点（目的意識、自己決定、個性・能力の発揮、共同性）を具現した学級活動を通して、目指す子どもの姿である主体性を向上させる。

【いつごろ（時期）】

年間を通して子ども自身がPDCAサイクルを自律的に回していけるようにする。実施時期は、発達段階を踏まえて各校で設定する。

【どのように（取組方法）】

小学校⇒これまでも取り入れてきた学級力向上プロジェクトのサイクルやアンケート項目の見直しを図る。

中学校⇒小学校での学習経験を生かし、1、2年生で、年間2回のサイクルで学級力向上プロジェクトを取り入れる。3年生は、1年時から継続してやってきたオリジナルの方法で、年間を通して子ども自身がPDCAサイクルを自律的に回していけるようにする。

② 何を（取組内容）：◎小中合同でのあいさつキャンペーン（「いいあいさつの日」）

【ねらい】

児童・生徒が自分たちの手で活動を創り、継続的に実践していくことで主体性を向上させる。

【いつごろ（時期）】

- ・年間を通して児童会・生徒会による呼び掛けを継続する。方法を工夫・改善しながら行う。
- ・月1回、小中学校合同で「いいあいさつの日」を設定し、児童会と生徒会が共同で計画して校門前であいさつ運動を行う。

【どのように（取組方法）】

- ・年度当初に児童会と生徒会の役員が実態について意見を交わして、取組のどこを工夫・改善するかを具体的に実践する。
- ・児童会・生徒会の役員だけでなくできるだけ多くの人に参加できるように各学校で方法を考える。
- ・職員やPTAにも呼び掛けて参加してもらおう。
- ・児童会と生徒会の役員が実態について意見を交わして、取組のどこを工夫・改善するかを具体的にする場を定期的に設定しながら実践を継続する。

③ 何を（取組内容）：◎小中合同の防災学習および実践を通した9年間の水防災学習プログラム作成

【ねらい】

中之口川による洪水を想定した防災・減災対策に焦点を当てた防災学習（水防災学習）を通して、防災意識を高めるとともに、地域の課題に主体的に向き合う。

【いつごろ（時期）】

年間を通して行う防災教育プログラムに位置付ける。

【どのように（取組方法）】

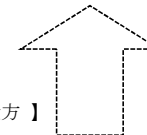
- ・小学校5～6年生と中学生1～3年生を一緒にした異学年グループを編成し、地域に出掛けて洪水時にどのような危険性が考えられるかについてフィールドワークを行う。
- ・フィールドワークの結果を基に学年に応じた防災学習を実施する。

④ 何を（取組内容）：次の活動を小中学校合同で行う。

- ・人権教育講演会（年1回）
- ・絆づくり集会（いじめ見逃しゼロスクール運動の一環）
- ・学校保健委員会（年1回）
- ・特別支援学級在籍児童・生徒の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・評価と、合同学習・交流学习の計画・実施

【目指す子どもの姿】

○自分で考え、互いを理解しながら支え合い、学び合う子
 ○味方に誇りをもち、自分に自信をもって日本や世界で堂々と活躍できる子



【「目指す子どもの姿」を実現するために、生活科・総合的な学習の時間で行う教育活動】

【身に付けさせたい資質・能力】

- 小 課題解決への見通しをもち、他者とかかわりながら追求したり、分かりやすく表現したりする力を付け、生活や学習に活かすことができる。
- 中 主体的に地域貢献活動に取り組み、かかわりを通して自己肯定感と表現力を高めながら、自分と社会の将来について考えを深めることができる。

【9年間を見通した学習の仕方】

- ・「授業における共通実践事項」
⇒UDLの観点から小中共通で学習環境や学習に関するUD項目を設定し、参観授業の指導案にも明記することで相互の理解を深める。
- ・「家庭学習の充実」
⇒①授業と連動した宿題や自主学習の工夫
②学習強調週間の設定
③「平澤興賞」の授与

味方中学校

学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿を実現するための手立て
3	①修学旅行のまとめ ②地域の財産や先人に学ぶ	①修学旅行レポートの作成し、レポートをもとにグループでプレゼンテーションを作成し、発表会を行う。 ②地域の重要文化財について、講師を招いて歴史的価値と建築学的価値の2つの視点から学習を深める。ボランティア活動を通して文化財を将来的にどう活かし、守っていくのかについてファシリテーションを行い自分なりの考えをもつ。行政と連携しながら実現に向けたアプローチをする。	①自分が実際に体験したことについて、自分の言葉でまとめ、表現する力を高めるためにプレゼンテーションを作成し、伝える難しさと伝わる喜びを味わわせる。 ②地域の文化や歴史への理解を深め、愛好する心情を育てるとともに、手段や方法を工夫しながら、他者へ伝える力を身に付けさせる。 地域のニーズを探り、ボランティア活動を積極的に行うことで地域の課題を知る。課題解決に向けた取組を提案、実践、広報することで味方地域の一員としての自覚と誇りを醸成する。
2	①職業体験学習 ②修学旅行に向けて	①身近な人の職業を調査し、仕事内容や必要な資格等を知る。職業講話やマナー講習の実施。地域で職業体験学習を2日間行う。活動を振り返り、発表会を実施する。 ②訪問先の文化や歴史を学ぶ。体験学習を通じて、ものづくりについて事前学習を行う。偉人の足跡から将来の自分について考える。	①職場のニーズを探り課題解決に向けた活動にすることで、職業体験を通して、自分の適性や興味・関心を知り、将来の進路について考えを深めるよう準備と振り返りを大切にする。 ②京都大学を訪問することで地域の偉人である平澤興氏の足跡を訪ね、「人の役に立つ」生き方について考えさせる機会とする。
1	①地域の凧作りに取り組み ②農業体験学習	①資料館を訪問し、大風合戦の歴史を学ぶ。巻凧製作や凧合戦に参加する。活動を振り返り、プレゼンテーションを使って発表を行う。 ②地域の農家で体験学習を2日間実施する。学習したことをまとめ、発表する。	①地域行事の歴史を学び、実際に製作・参加することで、地域の一員としての自覚や誇りを高める。 ②地域の農家からのニーズに応じて、事前に課題解決の方法を考えることで、主体的なボランティア活動を行う。農家の役立つ活動を行うことで自己肯定感を高める。

【独自プログラム】

「目指す子どもの姿」の達成を図る教育活動は◎

- ◎学級力向上プログラムを取り入れた主体性・自律性向上を目指す学級活動
- ◎小中合同でのあいさつキャンペーン
- ◎小中合同の防災学習及び実践を通した9年間の水防災プログラム作成
- ・以下の取組を小中合同で行う
人権教育講演会 絆づくり集会 学校保健委員会
「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・評価と合同学習・交流学習の計画・実施

味方小学校

学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿を実現するための手立て
6	①「会津体験教室を成功させよう」 ②「もっと知りたい！ふるさと味方」 ③「夢に向かって」	①会津の文化や歴史、自然について調べ、会津市内巡りや唐人凧作り体験を行う。 ②大凧や大凧合戦について調べ、地域の人々の大凧に対する思いを知る。 ③郷土の偉人である『平澤興』氏の生き方を学んだり、職業体験を通して、自分の将来の夢と今、自分ができることを考える。	①会津若松市の歴史や文化を知り、味方と比較することで味方の特長の理解につなげる。 ②大凧や大凧合戦について調べ、地域の人々の大凧に対する思いを知ることを通して、味方に住む地域の一員としての自覚と誇りを醸成する。 ③将来の職業について考え、どうすればその職業につけるのか道筋を学習し、夢の実現に向かって努力し続けることの大切さに気付かせる。
5	①「みんなの笑顔を真ん中に！～お米に願いをのせて～」 ②「お米で支援の輪を広げよう」	①地域の環境や米作りについて調べながら稲作活動を学ぶ。地域の専門家との交流を通して学習を深める。 ②学校田での米作り、米頒布を通して社会体験をする。被災地の様子について調べ、被災者への支援活動について話し合い実践する。	①おいしくて安全な米を作るために必要なことは何かを考え、めあてを実現するためには友達と協力して活動することの大切さについて考えさせる。 ②米作り体験と支援活動を通して、被災地への思いをもっとともに学んだことや身に付けたことを学習や生活に活かそうとする意欲を高める。
4	①「われら笹川邸広報隊！」 ②「思いやりの心を届けよう！」	①平澤氏ゆかりの越前西遊寺を訪ねたり、越前小の児童を招待してガイドをしたりする活動を通して、笹川邸について学ぶ。 ②障害者や高齢者に対する理解を深め、福祉施設訪問を通して自分たちで企画実行する。	①笹川邸や曾我・平澤記念館に関する知識を深め、地域のガイドボランティアから学ぶことによりガイドとしてのスキルを学ぶ。調べたことを分かりやすくガイドする活動を通してコミュニケーション能力を育む。 ②調べ学習や福祉施設体験を関連させながら、高齢者の立場に立って考えさせることで相手の立場を考え自分から行動する意欲につなげる。
3	①「とび出せ！味方探検隊！」（地域） ②「とび出せ！味方探検隊」（食）	①味方地域にある文化財や施設、公園等についてテーマを決めて調べ、調べて分かったことをまとめる。 ②地域の食文化や伝統食について調べ、特産物を使った伝統食作りを体験する。	①調べ方を学び、地域の人と交流しながら味方地域について調べて分かったことをレポートや新聞等にまとめる。いろいろなまとめ方を知ることで伝え方を身に付けさせる。 ②地域の特産物による伝統食作りを体験し、伝統食のよさを理解することで食という観点から地域のよさを知る。
2	①「町のすてき大はっ見」	①住んでいる町について知っていることやもっと知りたいことを話し合い、町探検に出かけて調べる。 調べ方やまとめ方を学び、クラスごとに分かったことを伝え合ったり、質問し合ったりする。まとめに町のためにできることを考え、行動する。	①町探検で人・もの・ことにふれることで、町のよさを実感する。まとめに町のためにできることを考え、行動することを通して役に立つ喜びを味わわせる。
1	①「あそびにいこうよ」	①季節ごとに地域の公園に行き、その季節を感じられるものと触れ合ったり、遊んだりして楽しむ。 地域のお年寄りから昔の遊びについて教えてもらいながら楽しむ。	①学校周辺の公園に行き、自然や地域の方と触れ合って遊びながら地域を知る。 地域の方と触れ合っただけの昔の遊びを体験することで、楽しさを共有する。